

イノウエ売上高100億円へ

今期目標、素材・エンジン注力

竹本と連携強化

ステンレス・高機能合金流通のイノウエ（本社〓東京都千代田区、井上浩樹社長）

は今期（2026年3月期）、売上高100億円を目指す。売上高と利益の過去最高を更新した前期（25年3月期）の業績を上回る目標を策定した。素材、エンジンリングなどの事業で売り上げを確保しながら、グループ会社で管機材・機械などを扱う竹本（本社〓神戸市中央区、木村賢児社長）との連携を進め、売上高達成を目指す。

同社単体の25年3月期売上高は、前期比12%増の95億9000万円と初めて90億円を突破。エネルギーや航空向けが堅調だったことや、エンジンアリング事業などで利益率が高い受注も増えた。拠点でみると山口県の下松営業所や茨城県の日立

営業所は堅調。昨年12月に開設した広島営業所（広島市南区）も好調だった。竹本も好調で、売上高と利益ともに過去最高だった。イノウエグループ全体の売上高は118億円。今期は米国税の影響など、不透明要素も多いが「6年前から参

入した」エンジンアリング事業や、堅調な電

本とのシナジーを二段

イノウエは今年で創立65周年の節目を迎えた。このほど、都内のパレスホテルで記念式典を開き、イノウエとグループ会社の竹本の社員、OBなど78人が集結し、盛大に節目を祝った。

同社は、井上社長の祖父、井上壮吉氏が1960年にステンレス流通「井上ステンレス」として設立した。2020年に60周年を迎えたが、当時はコロナ禍で節目を祝う行事ができなかつ



井上社長

創立65周年の節目祝う グループ会社含め式典に78人

た。今回は式典のほか、社史も制作し社員らに配布している。社史は65年の歴史を10分にまとめたもので、井上壮吉氏のエピソードや、これまでの歴史を振り返ったものとなっている。

式典では井上社長が関係者に謝意を述べた上で「当社がここまでこれたのは、人との縁を大切にし、一人一人の人間力の積み重ねで、このたび65周年を迎えることができた」とあいさつ。井上浩良会長は「当社は創立以来成長を続けてきた。本社の移転はこれまで6回行ったが、引越すたびに社員が増え、会社は大きくなっている。きょうから5年後の70周年に向けて、さらに前進していく」と述べた。

と高める」として、イノウエ単体で売上高100億円、グループを含めて売上高125億円を目指す。